

令和6年度 学校経営環境分析書

阿賀中学校区 校番 8 学校名 呉市立阿賀小学校

1 学校の内外環境の分析

外部環境	O (支援的要因) <地域環境> ・神田神社祭礼、阿賀のお漕船、豊栄新開完成記念碑など、有形・無形の文化財が多い。 ・水産業（かき打ち）が盛んである。 ・地域の行事やまちづくりセンター行事が活発である。 ・中学校のソーラン踊りは地域や小学生にもあこがれとなっている。 ・JRを使った交通移動ができる。 <教育環境> ・地域の方々の学校に対する関心や期待が高い。 ・ボランティア活動が活発で、多くの支援が得られる。 ・阿賀学園地域教育連携協議会（アカデミア）による交流活動が盛んである。	S (強み) <教育集团> ・教職員集団が組織として機能している。 ・小中一貫教育の推進により、教団間の連携が活発に行われ、子ども達の居場所づくりを意識した教育実践が行われている。 ・個の実態や状況に応じた積極的な生徒指導が実践できている。 <児童> ・児童の字ぼうとする意欲が向上している。 ・あいさつの声がよく響いている。 ・無言移動・無言掃除ができる。 ・阿賀小児童ボランティア隊「A J V」の活動が広がっている。 <環境> ・広い図書室やワークスペース、ユークリ広場を有効活用できる。	支援的要因と強みを生かした活動・取組は ・教育活動の情報発信を積極的に進め、保護者・地域と一体となった学校経営を進める。 ・阿賀学園地域教育連携協議会（アカデミア）との連携による諸活動を練り上げる。 ・小中一貫教育の中で、授業や生活における居場所づくりを通して、学力・体力の向上及び規範意識の醸成を図る。また、「思いやり・感謝・貢献」を目指して、子ども主体の取組みやボランティア活動を充実させる。
	T (阻害的要因) <地域> ・地域の言語環境（命令口調やよびすて等）の影響が出ている。 ・阿賀マリノ大橋や東広島呉道路の開通に伴う交通量増加により、交通事故発生危険度が高い。 ・学校は海抜 1.4mにあり、津波、高潮、液状化対策が必要である。 ・スーパーやコンビニが多く、誘惑が多い。 <家庭> ・基本的生活習慣の確立に課題のある家庭がある。 ・家庭によって学校教育への関心や家庭の教育力に差がある。 ・時に理不尽な要求をしてくる保護者がいる。	W (弱み) <児童> ・学習意欲が低く学力の定着が不十分な児童や、家庭学習の習慣が身につけていない児童がいる。 ・運動能力は向上傾向にあるものの、二極化傾向にある。 ・自己肯定感や自己有用感を十分に持てない児童がいる。 ・不登校や不登校傾向、個別の支援が必要な児童が一定数いる。 ・規範意識がうすく、暴力行為や人を傷つける言動をする児童がいる。 ・自分の思いをはっきりと表現できにくい児童がいる。	内部環境 ・個の実態や状況を共有する仕組みを整え、全教職員が子ども達の心に寄り添った働きかけができるようにする。 ・異学年交流や縦割り班活動を効果的に実践し、互いを尊重し大切にできる関係性をきづく。 ・生徒指導規程に基づく指導の徹底や警察等の関係機関と連携を行い、規範意識の醸成を図る。 ・食育の推進などにより、健康な心と体の育成を図る。 ・全校朝会、校内放送、玄関掲示等を活用して、がんばっている児童をほめる。 阻害的要因と弱みを克服する活動・取組は

2 重点課題

- ① 「個別最適な学び」の実現を目指して「主体的な学び」を促進し、学力の向上へ
 - ・授業改善を進める。（問いをつくる。自分の考えをしっかりと持ち、表現する。発展的振り返りをする。→主体学習へ）
 - ・基礎・基本の定着を図る。（ドリルタイム・学力補充時間の設定、国語辞典の活用）
- ② 規範意識の醸成と自尊感情の高揚
 - ・校内あいさつ運動を生かして、地域へも挨拶運動を広げる。「返事・あいさつ・くつそろえ」の徹底。
 - ・児童の頑張りや成長を認め、ほめることを通して、「学校が楽しい」「自分にはよいところがある」と言える子どもを育成する。
- ③ 心と体の健康づくりの推進
 - ・運動の日常化を進め、体力向上を目指す。
 - ・「早寝・早起き・朝ごはん」の基本的生活習慣の定着を図る。